

平成 28 年 度

講 義 要 項

観光経営学部 観光経営学科



新潟経営大学

観光経営学部観光経営学科の特色と

カリキュラムポリシー

1. 学部・学科の特色

観光経営学部観光経営学科では、本学の教育理念のもと、グローバル（グローバル＋ローカル）な人材の育成を意識したカリキュラムをはじめとする教育体制をとっている。主たる特色を挙げると下記の通りである。

①バリエーションに富んだ多数の観光関連科目を配置している。

②経営・マーケティング・会計科目等多数を必修科目としており、経営大学の強みを生かしたカリキュラム編成

③語学力（英語）の徹底養成

1年次から4年次まで語学を必修とし、時間を多く割き、ツールとしての英語を実践的に学ぶ。観光英語にも重点を置き、目標の一つとして観光英語検定にも取り組む。英語海外実習も重要視する。

④フィールドワークや実務の重視

座学中心では観光という専門領域から実態を把握できず、又、実際、目や身体で実感することが重要である。実習やゼミ活動、専門科目においても積極的に学外に出ることを推進する。

⑤ホスピタリティマインドの実践教育

1年次における「ビジネスマナーとホスピタリティ」においてその基礎を徹底する。また、「基礎ゼミナール」、「キャリアデザイン」等においても教育していく。なお、授業だけでなく、ごく自然にマナーや挨拶、おもてなしの心が身につくよう学部の特長として確立していく。

⑥地元・地域に密着したテーマの追求

県や地域の特徴や強みを活かした教育テーマを設定し、地域社会の発展に寄与する。例えば眠った観光資源を掘り起こし、地域の活性化に貢献する。また、本県の主力産業である農業を観光という視点から捉えた領域（コース）は本県の特徴を表し本学の学びの特徴でもある。

⑦大学と地域・企業（業界）との協力体制の確立

宿泊産業をはじめスキー場等のレジャー産業施設、観光農園、農家、流通業、食品加工など産学の連携を深めていく。

⑧国家資格・検定等資格指導の徹底指導

それぞれの進路、自己実現のために積極的にサポートする。英語関連資格はもとより国内

旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、通訳案内士（通訳ガイド）、ホテルビジネス検定、販売士、簿記検定、レストランサービス検定などである。

⑨産業界出身の教員の実務的指導

研究者のみならず、実務経験豊富な教員によるバランスのよい教育体制である。

⑩少人数教育による親身な指導

1 学年 60 名の少人数の学部であるが、その分学生に対し、目が行き届き「個別対応」重視の教育による自己実現の確立を目指す。

⑪授業は厳しいが夢と希望を与える教育

個々の個性と成長（実力をつける）を促進させるため教員が一体となった教育体制を堅持していく。

2. カリキュラムポリシー

（1）教育課程編成の基本方針

本学の観光経営学部観光経営学科は1学部1学科の編成であり、学年の定員は60人と極めて少ない人数である。しかしながらこの少人数を強みとし、教育課程の編成を充実させることが可能である。なお、編成の基礎となる概略方針は1年次より基礎から観光を学び2年次以降については興味・関心あるいは将来を見据えコース制を敷くが他コースの科目も履修できるようフレキシブルな対応をとる。また、単に教科・研究指導のみならず、1年次より該当する科目等を通じ、ビジネスパーソンとしての心構えや態度、マナーを身に付けさせる。さらに全員が夢や目標を持ち、意欲や興味をもって学べる課程編成とし、しっかりとサポートする。しかし、進級や単位取得には妥協を許さず4年間しっかりと学ばせる体制を堅持する。

（2）どのような人材を養成するのか

1）共通する人物像

①地域の観光資源をコーディネートでき、且つ、地域活性化に貢献でき、観光産業及びビジネスの発展に寄与できる人材を育成する。

②幅広い教養と観光の専門的知識はもとより、マネジメント能力をも兼ね備えた、広く産業に寄与できる人材を育成する。

③新潟県を中心として国内外で活躍できるグローバル（グローバル＋ローカル）な人材を育成する。

2）それぞれの活躍の場における人材養成

レジャー・まちづくり コース

地域振興と、まちづくりのリーダーを養成

それぞれの地域には、自然や景観、伝統、文化などの観光資源があり、これらに付加価値をつけ、観光客の欲求とニーズに応えることが大切である。また、地域の環境を護り自然の魅力を活かす考え方を学ぶ必要がある。

なお、スキー場やゴルフ場、マリンスポーツなどのアウトドアスポーツそしてレジャー施設あるいはリゾート施設などにおいてはマーケティングあるいはマネジメント能力が求められており、さらには温泉、産業観光、名勝などの観光資源はどうあるべきか。近年において注目されているクリーンな自然エネルギーと環境についても学びを広げ、単に理論に留まらず、フィールドワークや実習を通し、まちづくりなどの地域振興に役立つリーダーたる人材を育成する。

活躍の場としては主として地方公務員、国家公務員、レジャー・スポーツ関連産業、観光協会、商工会議所、商工会、NPO、観光物産館、観光農園、アウトドアメーカー、リゾート開発企業、不動産業、その他観光関連業界、金融機関、一般企業などいずれの分野にも進出できる。

アグリ・フードビジネス コース

農業と食を、観光とマネジメントの視点から追求し新たなビジネスを展開する人材の育成

農業県であり、越後平野の中央に位置する本学においてはアグリ（農業）やフード（食）のビジネスを学ぶには絶好の好環境にある。今、農業はビジネスや観光として新たな視点から捉えられている。すなわち、第6次産業としての農業であり、食文化そのものである。

また、新しい発想に転換をしていくことは我が国経済においても極めて重要なこととして考えられ、今その人材育成が求められている。

本コースは農産物等の食品の加工や流通、販売そして農村（地域）環境の保全等に着眼しつつ、起業（会社づくり）等を踏まえ安全、安心、おいしい、そして、良質な食品とはどういうものかを提案できるエキスパートの人材を育成する。当然ながら経営・ビジネス・観光という視点から授業を展開し、基盤となる実習も重要視する。

活躍の場としては、農業ビジネス法人起業、農業協同組合、観光農園、農業法人、商社、NPO、食品加工会社、食品流通会社、農家民宿、リゾート開発企業、不動産業、農家レストラン、一般企業など、いずれの分野にも進出できる。

英語・ツーリズム コース

語学と観光を学び国際ビジネスパーソンを目指す

この領域においては主として国際社会で活躍できるビジネスパーソンを目指す。国際的な企業、商社、航空業界、輸送・交通産業等で活かせるマネジメント能力を身に付けると同時に、徹底した英語教育を実践し、進路に応じ、観光英語、実用英検や TOEIC 等の受験、あるいは通訳案内士（ガイド）を目指す。

すなわち語学力を武器に観光関連業界に限らず、商社、貿易会社、銀行、教育などの分野へと多岐にわたって活躍できる。また、旅行業界で活躍したい人には旅行産業の実務に必要な国家資格「国内旅行業務取扱管理者」、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を目指すための科目も用意する。

活躍の場としては主として旅行社、航空及び関連会社（フライトアテンダント、グラウンドスタッフなどの空港スタッフ）、商社、貿易会社、観光ガイド（通訳）、運輸会社、銀行、観光協会、地方自治体職員、国家公務員、レジャー・スポーツ関連施設、観光物産館、リゾート開発企業、不動産業、マスコミ・出版、イベント企画会社、一般企業など、いずれの分野にも進出できる。

ホテル・ホスピタリティ コース

宿泊産業における高いマネジメント能力をもった人材の育成

主として、ホテル等宿泊産業や外食、ブライダルそして冠婚葬祭産業についても学ぶ。キャリア形成のために企業での実務研修で理論の裏付けを図り、高い知識とスキルを身に付ける。これらの業界において、より付加価値の高いサービスを提供でき、自ら企画・提案できるホスピタリティあふれる中堅業界人・リーダーとしての人材を育成する。

資格・検定ではサービス接客検定やレストランサービス技能検定など関連資格が多くあり、チャレンジしていく。活躍の場としては、主としてホテル、旅館等宿泊産業、レストラン、ブライダル企業、飲食業起業、冠婚葬祭産業、交通関係業界、空港、旅行会社、観光協会、レジャー・スポーツ関連施設、観光物産館、観光農園、リゾート開発企業、不動産業、マスコミ・出版、イベント企画会社、NPO、一般企業、いずれの分野にも進出できる。

観光経営学部観光経営学科カリキュラム表1/3

区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
専門基礎必修科目	経営学の基礎	2単位	1			必修	24単位
	簿記会計Ⅰ	2単位	1			必修	
	簿記会計Ⅱ	2単位	1			必修	
	ビジネスマナーとホスピタリティ	2単位	1			必修	
	観光経営Ⅰ	2単位	1			必修	
	新潟県の観光	2単位	1			必修	
	観光英語Ⅰ	1単位	1			必修	
	観光英語Ⅱ	1単位	1			必修	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅰ	1単位	1			必修	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅱ	1単位	1			必修	
	基礎ゼミナールⅠ	2単位	1			必修	
	英語Ⅰ	1単位	1			必修	
	英語Ⅱ	1単位	1			必修	
	英会話Ⅰ	1単位	1			必修	
	英会話Ⅱ	1単位	1			必修	
リーディングⅠ	1単位	1			必修		
ライティングⅠ	1単位	1			必修		
専門基本科目	観光経営Ⅱ	2単位		2		必修	24単位
	マーケティングの基礎	2単位		2		必修	
	財務諸表の見方・作り方	2単位		2		必修	
	キャリアデザインⅠ	2単位		2		必修	
	観光英語Ⅲ	1単位		2		必修	
	観光英語Ⅳ	1単位		2		必修	
	観光政策論	2単位		2		必修	
	レジャー産業論	2単位		2		必修	
	基礎ゼミナールⅡ	2単位		2		必修	
	コンピュータリテラシー応用Ⅰ	1単位		2		必修	
	コンピュータリテラシー応用Ⅱ	1単位		2		必修	
	オーラルイングリッシュⅠ	1単位		2		必修	
	オーラルイングリッシュⅡ	1単位		2		必修	
	英会話Ⅲ	1単位		2		必修	
	英会話Ⅳ	1単位		2		必修	
リーディングⅡ	1単位		2		必修		
ライティングⅡ	1単位		2		必修		
区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
専門応用科目	キャリアデザインⅡ	2単位		3		必修	必修科目10単位を含め12単位以上
	観光英語Ⅴ	1単位		3		必修	
	観光英語Ⅵ	1単位		3		必修	
	観光経営Ⅲ	2単位		3		必修	
	オーラルイングリッシュⅢ	1単位		3		必修	
	オーラルイングリッシュⅣ	1単位		3		必修	
	英会話Ⅴ	1単位		3		必修	
	英会話Ⅵ	1単位		3		必修	
	英語特論Ⅰ	2単位		4		選択	
	英語特論Ⅱ	2単位		4		選択	
	中国語特論	2単位		4		選択	
韓国語特論	2単位		4		選択		
ロシア語特論	2単位		4		選択		
専門選択科目	財務会計Ⅰ	2単位		2		選択	14単位以上
	財務会計Ⅱ	2単位		2		選択	
	ビジネス法Ⅰ	2単位		2		選択	
	ビジネス法Ⅱ	2単位		2		選択	
	海外英語実習	2単位		2		選択	
	販売と経営Ⅰ	2単位		2		選択	
	販売と経営Ⅱ	2単位		2		選択	
	原価計算論Ⅰ	2単位		2		選択	
	原価計算論Ⅱ	2単位		2		選択	
	経営トップセミナー	2単位		2		選択	
	マーケティングⅠ	2単位		3		選択	
	マーケティングⅡ	2単位		3		選択	
	経営戦略論Ⅰ	2単位		3		選択	
	経営戦略論Ⅱ	2単位		3		選択	
	財務管理論Ⅰ	2単位		3		選択	
	財務管理論Ⅱ	2単位		3		選択	
	国際経済論	2単位		3		選択	
	日本経済論	2単位		3		選択	
	経営分析論Ⅰ	2単位		3		選択	
	経営分析論Ⅱ	2単位		3		選択	
	アジアビジネス論Ⅰ	2単位		3		選択	
	アジアビジネス論Ⅱ	2単位		3		選択	
	販売と経営Ⅲ	2単位		3		選択	
販売と経営Ⅳ	2単位		3		選択		
インターンシップ	2単位		3		選択		

観光経営学部観光経営学科カリキュラム表2/3

区分	科目名	単位数	配当年次	必修・選択の別	卒業要件	
コース専門基本科目	地域とビジネスⅠ	2単位	2	選択	レジャー・まちづくりコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)	
	地域とビジネスⅡ	2単位	2	選択		
	まちづくり論	2単位	2	選択		
	まちづくり実習Ⅰ	2単位	2	選択		
	レジャー&アウトドア実習Ⅰ	2単位	2	選択		
	農業と観光	2単位	2	選択	アグリ・フードビジネスコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)	
	フードビジネス論	2単位	2	選択		
	アグリ・フード実習Ⅰ	2単位	2	選択		
	農業ビジネス論Ⅰ	2単位	2	選択		
	農業ビジネス論Ⅱ	2単位	2	選択		
	異文化コミュニケーション	2単位	2	選択	英語・ツーリズムコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)	
	通訳ガイド入門	2単位	2	選択		
	通訳ガイド演習Ⅰ	2単位	2	選択		
	旅行ビジネス論	2単位	2	選択		
	旅行業法	2単位	2	選択		
観光産業実習Ⅰ	2単位	2	選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)		
旅行実務演習	2単位	2	選択			
宿泊産業論	2単位	2	選択			
ホテル経営論	2単位	2	選択			
旅行ビジネス論	2単位	2	選択			
セレモニー産業論	2単位	2	選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)		
宿泊関連産業実習Ⅰ	2単位	2	選択			
セレクト産業論	2単位	2	選択			
宿泊関連産業実習Ⅰ	2単位	2	選択			
セレクト産業論	2単位	2	選択			
区分	科目名	単位数	配当年次	必修・選択の別	卒業要件	
コース専門応用科目	レジャー・まちづくりコース	専門ゼミナールⅠ	4単位	3	必修	レジャー・まちづくりコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)
	専門ゼミナールⅡ	4単位	4	必修		
	環境と自然エネルギー	2単位	3	選択		
	テーマパークとリゾート	2単位	3	選択		
	地域とイベント	2単位	3	選択		
	スキー産業論	2単位	3	選択		
	観光と開発	2単位	3	選択		
	世界遺産論	2単位	3	選択		
	まちづくり実習Ⅱ	2単位	3	選択		
	観光調査法	2単位	3	選択		
	レジャー&アウトドア実習Ⅱ	2単位	3	選択		
	アグリ・フードビジネスコース	専門ゼミナールⅠ	4単位	3	必修	アグリ・フードビジネスコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)
	専門ゼミナールⅡ	4単位	4	必修		
	アグリビジネス起業論	2単位	3	選択		
	グリーンツーリズム特論	2単位	3	選択		
	農業政策論	2単位	3	選択		
	アグリ・フード実習Ⅱ	2単位	3	選択		
	アグリ・フード実習Ⅲ	2単位	3	選択		
	農業経営論	2単位	3	選択		
	食と文化	2単位	3	選択		
	商品の開発Ⅰ	2単位	3	選択		
	商品の開発Ⅱ	2単位	3	選択		
	英語・ツーリズムコース	専門ゼミナールⅠ	4単位	3	必修	英語・ツーリズムコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)
	専門ゼミナールⅡ	4単位	4	必修		
観光地理	2単位	3	選択			
パブリックスピーキングⅠ	2単位	3	選択			
パブリックスピーキングⅡ	2単位	3	選択			
通訳ガイド演習Ⅱ	2単位	3	選択			
通訳ガイド演習Ⅲ	2単位	3	選択			
通訳ガイド総合演習	2単位	3	選択			
ビジネスイングリッシュⅠ	2単位	3	選択			
ビジネスイングリッシュⅡ	2単位	3	選択			
航空ビジネス論	2単位	3	選択			
交通サービス論	2単位	3	選択			
観光産業実習Ⅱ	2単位	3	選択			
ホテル・ホスピタリティコース	専門ゼミナールⅠ	4単位	3	必修	ホテル・ホスピタリティコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)	
専門ゼミナールⅡ	4単位	4	必修			
宿泊関連産業実習Ⅱ	2単位	3	選択			
ホスピタリティ産業の人材管理	2単位	3	選択			
民宿・旅館経営論	2単位	3	選択			
着物文化と演習	2単位	3	選択			
ブライダル論	2単位	3	選択			
ブライダル演習	2単位	3	選択			
秘書概論	2単位	3	選択			
秘書実務	2単位	3	選択			
サービスと接遇	2単位	3	選択			

観光経営学部観光経営学科カリキュラム表3/3

区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件		
			1	2	3				
外国語科目	中国語Ⅰ	1単位		2		選択	4単位以上 ※1言語で継続して4単位		
	中国語Ⅱ	1単位		2		選択			
	中国語会話Ⅰ	1単位			3	選択			
	中国語会話Ⅱ	1単位			3	選択			
	ロシア語Ⅰ	1単位		2		選択			
	ロシア語Ⅱ	1単位		2		選択			
	ロシア語会話Ⅰ	1単位			3	選択			
	ロシア語会話Ⅱ	1単位			3	選択			
	韓国語Ⅰ	1単位		2		選択			
	韓国語Ⅱ	1単位		2		選択			
	韓国語会話Ⅰ	1単位			3	選択			
	韓国語会話Ⅱ	1単位			3	選択			
	教養科目 一般教養科目	法学	2単位	1				選択	必修科目4単位を含め14単位以上
		心理学	2単位	1				選択	
経済学		2単位	1			選択			
現代社会と福祉		2単位	1			選択			
日本国憲法		2単位	1			選択			
教養の自然科学		2単位	1			選択			
地理学		2単位	1			選択			
外国史		2単位	1			選択			
教養の文章理解Ⅰ		2単位	1			選択			
教養の文章理解Ⅱ		2単位	1			選択			
アウトドアスポーツ		2単位	1			選択			
スポーツ&レジャー		2単位	1			選択			
宗教学		2単位	1			選択			
アジア言語入門(中・露・韓)		2単位	1			必修			
現代社会と情報	2単位	1			必修				

卒業要件

専門基礎必修科目	24単位	} 計124単位以上
専門基本科目	24単位	
専門応用科目	12単位以上	
専門選択科目	14単位以上	
コース専門基本科目	8単位以上	
コース専門応用科目	24単位以上	
外国語科目	4単位以上	
一般教養科目	14単位以上	

科目別掲載ページ一覧

科目別掲載ページ一覧(50音順)

アウトドアスポーツ	15
アジア言語入門 (中・露・韓)	16
英会話 I・II	17
英語 I・II	18
外国史	19
観光英語 I・II	20
観光経営 I	21
基礎ゼミナール I	22
教養の自然科学	23
教養の文章理解 I・II	24
経営学の基礎	25
経済学	26
現代社会と情報	27
現代社会と福祉	28
コンピュータリテラシー基礎 I・II	29
宗教学	30
心理学	31
スポーツ&レジャー	32～35
地理学	36
新潟県の観光	37
日本国憲法	38
ビジネスマナーとホスピタリティ	39
法学	40
簿記会計 I・II	41
ライティング I	42
リーディング I	43

講義要項

※ 学科・学年に関係なく科目名の五十音順に掲載されています。

科目名	開講期	単位数	担当教員	
アウトドアスポーツ	夏季・冬季	夏季・冬季 各2単位	<small>すぎうら せんじろう</small> 杉浦 善次郎 E-mail : sugiura@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>レジャー活動として幅広い年代に親しまれているアウトドアスポーツを体験し、技能や知識を習得するとともに、健康増進や生き甲斐に繋がる可能性を理解し、自ら企画運営できる能力の習得を目指す。</p> <p>夏季はキャンプ及び水辺活動を、冬季はスキー・スノーボードを実施する。なお、夏季のみ、冬季のみの履修も可能である。</p> <p>本科目は、繰返し履修することが可能であり、修得単位は卒業単位に加算される。</p>				
【到達目標】				
アウトドアスポーツの体験を通じて、技術や知識を獲得する。また、地域資源を活用したスポーツ・ツーリズムについて理解できるようになる。				
【授業計画】				
夏季		冬季		
ガイダンス(1時間)		ガイダンス(1時間)		
野外活動の基礎理論講義(1時間)		事前講習(1時間)		
安全管理の講義(1時間)		現地実習(3泊4日) 志賀高原		
現地実習(2泊3日) みなかみ		スキーもしくはスノーボード実技及びビデオクリニック		
野外炊事				
オリエンテーリング・ウォークラリー				
工作				
ラフティング及びキャニオニングもしくはカヌー				
パラグライダー				
フィールドゲーム				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>実習費が必要である。</p> <p>活動に適した服装や準備する用具についての詳細はガイダンスで説明する。</p>				
【成績評価の方法】				
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%。				
【テキスト】				
なし				
【参考文献】				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
アジア言語入門(中・韓・露)	通年	2単位	梅田純子、朱貞淑、ツェリッシュェフ イワン	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
中国語、韓国語、ロシア語のそれぞれの言語の基礎的な会話などやそれぞれの言語の文字などを中心に学習する。また、それぞれの国の文化や習慣についても学ぶ。				
【到達目標】				
読み書きや簡単な日常会話ができるようにして、それぞれの国の言語と並んでその文化、価値観、習慣などに興味を持たせる。				
【授業計画】				
前期		後期		
第1回	全体のガイダンス、中国の概要、ガイダンス(中国語)	第16回	中国語クイズ(前期の復習、文化)	
第2回	①発音(四声)②名前を中国語で言ってみよう	第17回	①名詞の文②趣味	
第3回	①発音(母音)②数(1~10)誕生日	第18回	①形容詞の文②食べ物や飲み物	
第4回	①発音(子音)②数(1~100)ビンゴに挑戦	第19回	①動詞の文②動物	
第5回	復習、中国語のテスト	第20回	復習、中国語のテスト	
第6回	韓国の概要、文字の構成、母音、単語	第21回	韓国の文化、文字の復習	
第7回	文字、母音、子音、単語	第22回	文字、パッチム、単語	
第8回	文字、子音、単語、挨拶	第23回	文字、合成母音、単語	
第9回	文字、子音、単語、ハングルで名前や地名を書く	第24回	文字、自己紹介	
第10回	復習、韓国語のテスト	第25回	復習、韓国語のテスト	
第11回	ロシアの概要、ガイダンス(ロシア語)、アルファベットと発音	第26回	ロシアの文化。ボキャビュラリー、文例	
第12回	アルファベットと発音	第27回	会話：町を歩く	
第13回	名詞、動詞、形容詞、数字、文例	第28回	会話：友達と話す	
第14回	自己紹介、日常会話	第29回	手紙を読む・書く	
第15回	復習、ロシア語のテスト	第30回	復習、ロシア語のテスト	
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
欠席を避け、与えられた課題に積極的に対応すること。				
【成績評価の方法】				
受講態度、積極性、テストと期末試験の得点等を総合的に判断して行う。				
【テキスト】				
中国語：本講座専用教材を使う(詳しくは初回の授業で説明)。				
韓国語：プリント等を使う。				
ロシア：プリント等さまざまな資料を使う。				
【参考文献】				
随時、指示する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
英会話 I・II	I：前期 II：後期	I：1単位 II：1単位	サウスウィック プライアン E-mail: b-southwick@duck.niigataum.ac.jp フィニー テイモシー E-mail: thefin@yahoo.co.jp トゥーミー グレグ E-mail: twomey@fuga.ocn.ne.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>ビギナーレベル学生が、英語圏の国々の文化とのふれあいを通して、基本的なスピーキング技術を習得する授業である。</p> <p>具体的には、趣味、習慣、美術、スポーツなど、文化的なトピックの英文を読み、その内容について、ペアワークで会話をするとともに、グループディスカッションを行なう。また洋楽を聞き、実際に歌ってみることで、英語特有のリズム感やイントネーションを身につける。</p>				
【到達目標】				
基本的なスピーキング技術を高めること。				
【授業計画】				
前期		後期		
第1回：Introduction to Course; Self-intro		第1回：Introduction to Course; Self-intro		
第2回：Personal Information; Meeting People		第2回：Everyday Activities		
第3回：In the Classroom; At Home		第3回：Languages and Nationalities		
第4回：In Town; Around the World		第4回：Hobbies and Activities		
第5回：Short Test; Everyday Activities		第5回：Short Test; Frequency of Actions		
第6回：Everyday Routines		第6回：Describing People		
第7回：Describing People and Things; Weather		第7回：Feelings, Emotions; Describing Activities		
第8回：Short Test; Special Topics		第8回：Short Test; Special Topics		
第9回：Family Members		第9回：Ability; Occupations; Job Hunting		
第10回：Describing Activities and Events		第10回：Expressing Obligation; Invitations		
第11回：Places around Town; Locating Places		第11回：Future Plans, Intentions; Wants		
第12回：Short Test; Describing Neighborhoods		第12回：Short Test; Weather Predictions; Time		
第13回：Clothing; Colors		第13回：Ailments; A Doctor's Appointment; Future Plans, Intentions; Wants		
第14回：Shopping for Clothing		第14回：Telling about the Past		
第15回：Review of Course: About the Final Exam		第15回：Review of Course; About the Final Exam		
【履修条件】				
指定されたテキストを購入してください。				
【学習上の留意点および準備等】				
授業に遅れず出席し、宿題をきちんと完成して提出できること、自習学習をすること、筆記用具とテキスト等を用意すること、授業中に与えられる課題に積極的に対応すること				
【成績評価の方法】				
積極性、課題提出、とテストの結果を総合的に評価する。				
【テキスト】				
Molinsky, S. J., & Bliss, B. (2003) Side by Side, International Version, Book 1, (3rd ed.). Pearson Japan Side by Side, Activity Workbook 1, (3rd ed.).				
【参考文献】				
和英・英和辞典				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
英語Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	<small>いのうえ のぶえ きぶし</small> 井上 信恵、木伏 あづさ E-mail：n-inoue@duck.niigataum.ac.jp azuki-21@cameo.plala.or.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>英語の重要性が叫ばれる昨今、実用的な英語力を測る基準として、就職の際にも英語資格試験のスコアを重視する企業が増えてきている。本講座では、そういった資格試験への受験意欲を促し、スコア達成のための表現を学ぶと共に、単なるスコア達成にとどまることなく、英語力そのものを向上させることを目的とする。具体的には、多くの企業が採用しているTOEICに焦点を当て、TOEICでよく出題されるボキャブラリー、イディオム、文法表現を学びながら、必要に応じて映画や洋楽なども教材として使用し、生きた英語の習得を目指す。特に、義務教育や教科書では学ばないが、ネイティブが日常的によく使用するフレーズも併せて学ぶことで、使える英語を習得し、躊躇なく英語によるコミュニケーションが取れることを目指す。 ※オーラルコミュニケーション力を高めるため、授業は一部英語で進める。</p>				
【到達目標】				
基本的なビジネス表現及び日常会話表現を使用できるようになる。				
【授業計画】 ※シラバス記載のChapterは教科書のChapterと対応				
前期（英語Ⅰ）		後期（英語Ⅱ）		
第1回：ガイダンス		第1回：ガイダンス		
第2回：Chapter 1, Listening Section		第2回：Chapter 7, Listening Section		
第3回：Chapter 1, Reading Section		第3回：Chapter 7, Reading Section		
第4回：Chapter 2, Listening Section		第4回：Chapter 8, Listening Section		
第5回：Chapter 2, Reading Section		第5回：Chapter 8, Reading Section		
第6回：Chapter 3, Listening Section		第6回：Chapter 9, Listening Section		
第7回：Chapter 3, Reading Section		第7回：Chapter 9, Reading Section		
第8回：Chapter 4, Listening Section		第8回：Chapter 10, Listening Section		
第9回：Chapter 4, Reading Section		第9回：Chapter 10, Reading Section		
第10回：Chapter 5, Listening Section		第10回：Chapter 11, Listening Section		
第11回：Chapter 5, Reading Section		第11回：Chapter 11, Reading Section		
第12回：Chapter 6, Listening Section		第12回：Chapter 12, Listening Section		
第13回：Chapter 6, Reading Section		第13回：Chapter 12, Reading Section		
第14回：英文メールの書き方の基本		第14回：英文レターの書き方の基本		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
【履修条件】				
特になし。				
【学習上の留意点および準備等】				
単語テスト及び小テストが成績評価対象となるため、そのための準備・復習が求められる。				
【成績評価の方法】				
《英語Ⅰ》単語テスト12%（各2%、全6回）、小テスト18%（各3%、全6回）、課題（英文メール）10%、定期試験60%				
《英語Ⅱ》単語テスト12%（各2%、全6回）、小テスト18%（各3%、全6回）、課題（英文レター）10%、定期試験60%				
【テキスト】				
石井隆之ほか（著）『CD付 ストーリーで学ぶTOEIC®TESTビギナーズ ENJOY PRACTICING FOR THE TOEIC TEST』（三修社）				
【参考文献】				
特になし。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
外国史	後期	2単位	いしだ 石田 レイ子	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>「20世紀」は「戦争と革命の世紀」「極端な時代」と呼ばれている。本講義では「20世紀の世界」をテーマとして、第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の背景・特色・因果関係、並びに第二次世界大戦後の「脱植民地化」の推移を多角的に理解・考察する。また映像資料などを活用して、戦争の中で苦しむ民衆の苦闘・生活の実態を具体的に見つめ、把握したい。</p>				
【到達目標】				
<p>「20世紀の世界」を構造的に学ぶことによって、現代世界の問題とその歴史的背景を理解する。それとともに未来の地球市民として「平和と共存」の世界を開拓するための課題を探究する。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回：ガイダンス 第2回：第一次世界大戦① 第3回：第一次世界大戦② 第4回：ロシア革命とヴェルサイユ体制の成立 第5回：戦間期の世界① 第6回：戦間期の世界② 第7回：第二次世界大戦①（独ソ戦、アジア・太平洋戦争） 第8回：第二次世界大戦②（ヨーロッパのレジスタンス） 第9回：第二次世界大戦③（第二次世界大戦の終結、国際連合の出発） 第10回：冷戦の開始と中華人民共和国の成立 第11回：冷戦の時代①（中東戦争、核兵器の脅威） 第12回：冷戦の時代②（脱植民地化、南北問題） 第13回：冷戦の終結 第14回：冷戦後の世界 第15回：まとめ</p>				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
適宜必要に応じて指示する。				
【成績評価の方法】				
レポート・試験の結果等を総合的に判断して評価する。				
【テキスト】				
木畑 洋一『二〇世紀の歴史』（岩波新書）				
【参考文献】				
ウィリアム・H. マクニール『世界史 下』（中公文庫）・『世界の歴史26～30巻』（中央公論社）				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光英語Ⅰ・Ⅱ	I：前期 Ⅱ：後期	I：1単位 Ⅱ：1単位	<small>いのうえ のぶえ こばやし みなこ</small> 井上 信恵、小林 美奈子 E-mail：n-inoue@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>国際社会で活躍できるグローバル人材育成の必要性が叫ばれる中、観光ビジネスも多様化し、ツアーコンダクターなどの旅行業務従事者をはじめとして、各観光施設における観光業務、ホテルやレストランなどでの各種業務、来日観光客への通訳ガイドなど、様々なニーズに応えられるプロフェッショナルの養成が急務となっている。このような背景を踏まえ、本講座では、アウトバウンド（海外旅行）及びインバウンド（訪日旅行）においてよく使用される実践的な英語表現に焦点を当て、将来観光産業を志す者に求められる英語力の基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>※オーラルコミュニケーション力を高めるため、授業は主に英語で進めるが、必要に応じて日本語でも補足する。</p> <p>《観光英語Ⅰ》海外旅行の際に遭遇するであろう様々な場面を想定し、旅行者としての立場、また観光ビジネスに携わる側の立場から、各場面で使用されることの多い語彙や表現を学ぶ。</p> <p>《観光英語Ⅱ》来日観光客を案内する際に想定される様々な場面を取り上げ、道案内などの基本的な表現をはじめとして、日本文化や国内の観光名所等を英語で紹介する際に必要な基礎表現を学ぶ。</p>				
【到達目標】				
<p>《観光英語Ⅰ》海外旅行を行う際に必要とされる基礎的な英語表現を使用できるようになる。</p> <p>《観光英語Ⅱ》日本を訪れる観光客に対して、躊躇することなく英語でコミュニケーションを図ることができるようになる。</p>				
【授業計画】				
前期（観光英語Ⅰ）		後期（観光英語Ⅱ）		
第1回：Introduction - ガイダンス		第1回：Introduction - ガイダンス		
第2回：Travel and Tourism - 旅行一般		第2回：Giving Directions - 道案内		
第3回：Airplanes - 飛行機		第3回：Modes of Ground Transportation - 送迎の種類		
第4回：Immigration and Customs - 出入国と税関		第4回：Hotel Front Desk - ホテルのフロント		
第5回：Airports - 空港		第5回：Ryokans - 旅館		
第6回：Hotels - ホテル		第6回：Japanese Dishes - 日本食		
第7回：Eating out - 食事		第7回：Gifts and Souvenirs - お土産		
第8回：Sightseeing - 観光		第8回：Tourist Information Center - 観光案内所		
第9回：Shopping - 買い物		第9回：Drama - ロールプレイの発表		
第10回：Transportation - 交通機関		第10回：Japanese Culture - 日本文化		
第11回：Health and Safety - 健康と安全		第11回：World Heritage Sites in Japan - 世界遺産		
第12回：Foreign Currency Exchange - 外貨の両替		第12回：Tourist Attractions in Niigata - 新潟の見所		
第13回：Review - 復習		第13回：Presentation - プレゼンテーション		
第14回：Drama - ロールプレイの発表		第14回：Feedback - フィードバック		
第15回：Reflection - まとめ		第15回：Reflection - まとめ		
【履修条件】				
特になし。				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>毎回小テストを行うため、学んだ重要表現については、都度復習することが求められる。また、ロールプレイ、及びプレゼンテーションが成績評価の対象となるため、そのための準備が必要となる。</p>				
【成績評価の方法】				
<p>《観光英語Ⅰ》小テスト33%（各3%、全11回）、ロールプレイ17%、定期試験50%</p> <p>《観光英語Ⅱ》小テスト21%（各3%、全7回）、ロールプレイ9%、プレゼンテーション20%、定期試験50%</p>				
【テキスト】				
観光英検センター（著）『CD付 ベーシック観光英語 English for Tourism -Basic-』（三修社）				
【参考文献】				
特になし。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光経営Ⅰ	後期	2単位	パロリ ブレンディ E-mail: b-barolli@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>本講義は、観光サービスを提供する各種の事業活動(=観光事業)の全貌を、経営学の視点から概観する。そのために、観光経営の現場における問題の所在、諸問題が生起する原因、問題解決に資する方策、そして観光のさらなる振興に寄与する事業創造等を理論と事例分析を通じて考察する。前期は「観光経営の基礎理論」、後期は「観光事業の経営および環境の理解」を中心に講義を進める。なお、観光分野の実務家を外部講師として招き講義を行うこともある。</p>				
【到達目標】				
<p>内容をきちんと理解し、学外の第三者へ説明できるレベルに到達した学生を想定している。観光経営に関する理論に基づき、観光事業を取り巻く環境と観光関連の各部門について理解を深めることを狙う。具体的には下記のことを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光経営の理論を把握すること ・観光事業を取り巻く環境と課題の解決に向けた施策を理解すること ・さまざまな観光事業者の現状と課題について理解すること 				
【授業計画】				
後期				
第1回：ガイドランス				
第2回：観光産業の理解				
第3回：観光経営の基礎				
第4回：観光経営に関する諸理論				
第5回：観光経営を取り巻く環境の理解				
第6回：外食産業経営（フィールドワーク）				
第7回：宿泊産業経営（フィールドワーク）				
第8回：観光行動と観光市場				
第9回：観光政策と行政				
第10回：観光まちづくり				
第11回：集客戦略				
第12回：観光産業の人的資源管理				
第13回：観光業界が求める人材像				
第14回：新潟県内フィールドワーク				
第15回：まとめ				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>「〇〇新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されているので、目を通しておくとういでしょう。」 「県内の〇〇センターには関連する最新情報が掲示されています。」 などの、学習上の助言を行う。積極的に対応してもらいたいと思います。</p>				
【成績評価の方法】				
課題レポート30%（各レポート15%×2回）、期末試験50%、受講態度 20%				
【テキスト】				
岡本伸之編著 「観光経営学」朝倉書店 2013年。				
【参考文献】				
手嶋雅夫、関口陽介、他「観光のビジネスモデル:利益を生み出す仕組みを考える」、学芸出版社2011年。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
基礎ゼミナールⅠ	前期	2単位	観光経営学部 各教員	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>大学で学ぶために必要な基礎的なスキルズを育成する。具体的には、「読む」、「書く」、「調べる」、「発表する」能力を養成する。レポート・論文の書き方に焦点を当て、インテンシブな演習を行う。ことに、レポート・論文の要件と構成(序論、本論、結論)、テーマと問題の設定、本文の組み立て方、文章形式と文章表現を教える。また、資料・文献の検索と利用について説明する。口頭発表およびディベートの練習もする。それに、新潟県の観光名所についての理解や知識を深めるために県内旅行を実施する。</p> <p>学務課が無作為にクラスを編成し、各クラスを1名の担任教員が担当して行う。ただし、共通の課題も与える。</p> <p>※基礎ゼミナールⅠの担当は、クラス担任として年間を通じて各学生の指導・相談を行う。</p>				
【到達目標】				
<p>大学生がレポートや論文を作成するため、そして口頭発表とディベートをするために必要な基礎的な知識とスキルズを得る。</p>				
【授業計画】				
<p>基礎演習Ⅰ</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：大学での勉強とレポート・論文の書き方1</p> <p>第3回：大学での勉強とレポート・論文の書き方2</p> <p>第4回：口頭発表1</p> <p>第5回：大学での勉強とレポート・論文の書き方3</p> <p>第6回：口頭発表2</p> <p>第7回：新潟県の名所(県内旅行)*</p> <p>第8回：新潟県の名所(県内旅行)*</p> <p>第9回：大学での勉強とレポート・論文の書き方4</p> <p>第10回：大学での勉強とレポート・論文の書き方5</p> <p>第11回 ディベート1</p> <p>第12回：大学での勉強とレポート・論文の書き方6</p> <p>第13回：大学での勉強とレポート・論文の書き方7</p> <p>第14回：ディベート2</p> <p>第15回：総括</p> <p>(この授業計画は大枠を示し、各授業の詳細はクラス担任の教員が決める)。</p>				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
与えられた課題に積極的に対応すること。				
【成績評価の方法】				
演習課題、レポートの全てを総合評価する。				
【テキスト】				
河野哲也 「レポート・論文」の書き方入門 第3版 慶應義塾大学出版会2011				
【参考文献】				
教員ごとに適宜定める				

*土曜日に行う。日帰りの県内旅行。『基礎ゼミナールⅠ』の2コマ分と『新潟県の観光』の2コマ分とカウントされる。旅行を行う週とその翌週は『基礎ゼミナールⅠ』および『新潟県の観光』のクラス授業はなし。

科目名	開講期	単位数	担当教員	
教養の自然科学	前期	2単位	<small>よこやま ひろし</small> 横山 泰 (308研究室) E-mail: h-yokoyama@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>科学の発展が、衣、食、住そして情報通信などの快適性を大きく向上させました。しかしその代償として、環境、エネルギー、資源、人口、教育等の問題に取り組んでいくことが求められています。社会が持続可能な発展を遂げ、次世代により良く繋げるためには、現代社会を担う私たちの教養が問われる時代です。</p> <p>本講義では、身近なトピックスを手掛かりにして現代的な自然科学の諸問題についてわかりやすく論じます。それと同時に、高等学校段階までに学んだ理科学分野の内容である慣性、物質の状態、化学反応、細胞など、自然科学の基礎についても学びます。</p> <p>従来の講義型に加え、受講者による事前学習を前提としたアクティブ・ラーニングを取り入れて授業を行います。それらの学習を通じて自然科学の教養を深め、物理学、化学、生物学、地球科学等について幅広く学ぶことを目的とします。</p>				
【到達目標】				
<p>人間生活における自然科学の役割を認識し、科学的態度と教養を身につけること。</p> <p>物理学、熱力学、化学、生物学、環境科学、地球科学に関する基礎的な能力を身につけること。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回：過去と未来の科学（自然科学の発展）『100年後の科学とは？』</p> <p>第2回：生活と単位（数学、単位変換）『海外旅行の前にこれだけは知っておきたい、単位の違いとは？』</p> <p>第3回：物理学（球体上の慣性）『地球はなぜまわっている？日本の台風はなぜ左巻きなのか？』</p> <p>第4回：物理学（熱と温度）『90℃のお風呂は火傷するのに、90℃のサウナはなぜ火傷しないのか？』</p> <p>第5回：物理化学（水の相図）『アイススケートにおけるエッジの役割とは？』</p> <p>第6回：物理化学（熱力学の法則と内部エネルギー）『アニメや漫画にでてくる“気”は熱い？痛い？』</p> <p>第7回：物理化学（量子論）『光とは？海と空はなぜ青いのか？』</p> <p>第8回：化学（物質のその変化）『プラスチックの作り方は？』</p> <p>第9回：生物化学（遺伝子）『老化とは？』</p> <p>第10回：生物学（古生物学、生態学）『アノマロカリスとは？』</p> <p>第11回：地球科学（地球の表面）『海とは？大気とは？』</p> <p>第12回：気象学（気象熱力学）『地球温暖化問題とは？』</p> <p>第13回：資源とエネルギー 『原子力発電とは？』</p> <p>第14回：現代社会と科学 『燃料電池とは？』</p> <p>第15回：教養の自然科学まとめ『科学的な考え方は？』</p>				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
履修者各自でプリント収集用のA4ファイルを用意することが望ましい。高等学校の各種理科の復習が講義内容の理解に役立ちます。本科目は公務員試験対策にも有益な内容です。				
【成績評価の方法】				
講義課題、演習課題、レポート、試験の全てを総合評価する。				
【テキスト】				
なし				
【参考文献】				
講義中で適宜定める。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
教養の文章理解Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	にしざわ かずみつ 西澤 一光（407研究室） E-mail：nishiyam@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>人間の知的成長は「出会い」「経験」「読書」の三要素で完成されていく。 この授業では「読書」の方法を学ぶ。「読書」で諸君の知を総合し、磨くのである。 「読書」で重要なのは、つねに「なぜ」という疑問をもちながら読んでいく姿勢である。 しかし、これができる人は、まれだ。衆愚はすぐに「ああ、そうなんだ」と言う。そこに真実を探そうとする姿勢はゼロである。だが、自分で調べようとする者は、他者の情報操作の餌食となる。諸君は「ええ？本当かなあ？」で行くべきだ。情報操作に乗って他の誰かに操られるということは、現代社会では致命的な結果を生む。諸君の頭脳は、自らの思考を展開するため、つまり、自由に考えるために与えられているのだ。前期は、情報操作を打破するための基本書・名著を読む。後期は、学生が各自、経済・経営の理論書を選択して、その内容について報告できるようにしてもらう。</p>				
【到達目標】				
<p>①読書を通じて思考力にみぎきをかけ、充実した毎日を送れる人間となることをめざす。 ②自分の意見を自在に表現し、人脈をひろげられる人間になることをめざす。</p>				
【授業計画】				
教養の文章理解Ⅰ（戦後史の正しいヴィジョンへ）			教養の文章理解Ⅱ（転換期の世界ヴィジョン）	
第1回：序論1：現代世界の構造転換			第1回：序論1 豊かな国とは何か	
第2回：序論2：格差社会と学習の意義			第2回：序論2 経済概念の基礎知識	
第3回：平川克美1			第3回：序論3 日本の高度経済成長とその後	
第4回：発表と討論1			第4回：経営者の書いた本1	
第5回：平川克美2			第5回：経営者の書いた本2	
第6回：発表と討論2			第6回：ノーベル経済学賞受賞者の本1	
第7回：孫崎享1			第7回：ノーベル経済学賞受賞者の本2	
第8回：発表と討論3			第8回：ピーター・ドラッカー1	
第9回：孫崎享2			第9回：ピーター・ドラッカー2	
第10回：発表と討論4			第10回：受講生の問題意識の確認	
第11回：田中宇1			第11回：予備発表1	
第12回：発表と討論5			第12回：予備発表2	
第13回：田中宇2			第13回：本発表1	
第14回：発表と討論			第14回：本発表2	
第15回：総合発表と相互評価会			第15回：本発表3	
【履修条件】				
第1回および第2回の授業は、当然、両方とも出席すること。授業はすべて出席すること。無断欠席はいっさい認めない。総じて、大人として行動し、授業の質の向上に貢献すること。				
【学習上の留意点および準備等】				
①最前列から順に着席する、②寝ている人、携帯をいじっている人は、即刻退室を命ずる、③止むなく欠席する場合には事前に連絡する、④遅刻者は、他の受講生に遅刻の理由を説明する。				
【成績評価の方法】				
試験は行わない。全出席が前提。平常の授業での発表（毎回）とパフォーマンスを総合的に判断して評価する。とくに授業をもちあげることににおいて貢献できた学生を高く評価する。				
【テキスト】				
当方で作成して配布する。プレゼン資料は学生が作成する。				
【参考文献】				
随時、授業で紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
経営学の基礎	前期	2単位	<small>やぶした やすひろ</small> 藪下 保弘 (2314研究室) E-mail: yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>情報技術の発展と国際社会の激変が相俟って、経営学もダイナミックかつ複雑に進化している。</p> <p>本授業では、経営学の入口に位置づけられる領域を取り扱うが、できる限り最新の動向を取り入れつつ進めるよう心がける。</p> <p>前半は、経営学に情報科学と観光学の話題を盛り込みながら、初学者を対象として専門用語とキーワードの理解を中心に進める。</p> <p>後半は、時事ニュースやネットワークなどを通して伝えられるケースを取り上げ、これらの報道内容を咀嚼して理解し、事例の分析・考量をとおして経営学の基礎力を高める。</p>				
【到達目標】				
授業をとおして得た専門用語や知識を、レポートやディスカッションで自在に使いこなすレベルを目指す。				
【授業計画】				
第1回：ガイダンス 第2回：経営学の系譜とトレンド 第3回：企業経営の基礎(1) 株式会社のしくみ 第3回：企業経営の基礎(2) 会計と財務 第4回：企業経営の基礎(3) 組織マネジメント 第5回：企業経営の基礎(4) 戦略と組織 第6回：企業経営の基礎(5) 企業倫理と統治 第7回：情報化社会の企業経営 第8回：国際社会と経営環境 第9回：先端技術の経営 第10回：知的資本の経営 第11回：アントレプレナー・シップ 第12回：地域社会と経営 第13回：観光振興と地域活性化 第14回：総括（企業経営を取り巻く環境と展望）				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
はじめが肝心！最初のうちは、初めて聞く用語の頻出に戸惑うかもしれないが、わからないところを後回しにせず、直ちに調べる癖をつけていただきたい。				
【成績評価の方法】				
中間テスト、期末テストを総合して評価する				
【テキスト】				
開講時に指示する				
【参考文献】				
適宜紹介する				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
経済学	後期	2単位	<small>よしだ いちろう</small> 吉田 一郎 (307研究室) E-mail: yoshida@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>経済学の基礎的な考え方を講義する。経済学とは資源配分の効率性、所得分配の公正性の2点を考える学問である。経済学は、資源の希少性の故に成り立つのである。基本的な考え方を理解したうえで、ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶことにする。また、現状を事例としておき経済政策などについても講義していくことにしたい。</p>				
【到達目標】				
<p>経済学の基本的な考え方を身に付け、経済現象などを自ら考える力を養うことを目標とする。</p>				
【授業計画】				
第1回：オリエンテーションと経済学の希少性 第2回：経済学の歴史 第3回：ミクロ経済学入門 第4回：マクロ経済学 第5回：マクロ経済学 第6回：マクロ経済学 第7回：マクロ経済学 第8回：マクロ経済学 第9回：ゲームの理論(囚人のジレンマ) 第10回：日本経済と経済統計 第11回：経済政策論 第12回：経済政策論 第13回：経済政策論 第14回：経済政策論 第15回：まとめ				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
授業は、欠席しないよう心掛けて欲しい。				
【成績評価の方法】				
定期試験を重視する。				
【テキスト】				
特に定めない。				
【参考文献】				
講義中に紹介していく。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
現代社会と情報	後期	2単位	<small>よこやま ひろし</small> 横山 泰 (510研究室) E-mail : h-yokoyama@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	学科共通必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>現代社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められます。情報社会に次いで、知識社会、共有知社会とも言われる現代では、生み出される新しい技術に対応して新しい能力が求められています。</p> <p>また、大学においては研究計画の立案、取材・情報収集、データ集計・統計処理、論文作成などの様々な場面で、情報リテラシーが求められます。すなわち、大学生にとって情報リテラシーは研究活動の基礎であるといえます。</p> <p>本講義では、情報モラル、情報分析、情報の科学的な理解、情報社会の諸問題など、情報を扱うための基礎知識をトータルに学びます。</p>				
【到達目標】				
<p>現代社会における情報の役割を認識し、情報社会の諸問題について論じることができるようになること。情報の概念整理、構成、分析に関する基礎的な能力を身につけること。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回：現代社会と情報概論 第2回：情報社会とコンピュータ『スマートフォンとコンピュータ』 第3回：ネットワーク『集合知はなぜ成り立つのか』 第4回：コンピュータ・アプリケーション『汎用性とは何か』 第5回：現代社会のコミュニケーション『ソーシャルメディアのゆくえ』 第6回：現代社会の光と影『繋がるというストレスを考えよう』 第7回：情報と概念『私たちが情報にいだく何か』 第8回：情報のモデル化『情報をわかりやすく表現する』 第9回：情報の探索『本当に知らないことは調べられない』論理と演算『最も小さな情報』 第10回：情報の判断『情報の真偽を見極める』 第11回：論理と演算『最も小さな情報』 第12回：メディアと情報『価値ある情報、騙されるということ』 第13回：科学的リテラシー『なぜオバケが怖いのか』 第14回：防災と情報のリテラシー『次なる大災害に備える』 第15回：現代社会の労働と情報の再生産</p>				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>プリントを配布するので、履修者各自でプリント収集用のA4ファイルを用意することが望ましい。毎回出される課題の学習を含め、予習90分・復習90分の学習を必ず行うこと。</p>				
【成績評価の方法】				
講義課題、演習課題、レポート、試験の全てを総合評価する。				
【テキスト】				
岡本敏雄 ほか、『標準教科書 よくわかる 情報リテラシー』（技術評論社）				
【参考文献】				
海野敏、田村恭久『情報リテラシー』（オーム社）				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
現代社会と福祉	後期	2単位	<small>なかじま じゅん</small> 中島 純(403研究室) E-mail: nakajima@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>障がい者(児)問題をテーマとする。わたしたち現代人の多くは「健常者」の視点から世界を見て価値観を形成し、市民生活を営んでいる。障がい者問題を視野に入れることで、人間や社会の見え方はどのように変わるのか、われわれが目指す方向軸を共生社会の実現に求めるなら、教養科目において福祉を学ぶことは知識よりも、暮らしの意識にはたらきかけるものとならねばならない。本講義では、誕生から、死に至るまでの人間のライフコースに沿うかたちで家庭や、教育、結婚、就労といった具体的な生活場面に即して障がいの問題を考えていく。障がい者にとって暮らしやすい社会は、障がいの無い者にとっても暮らしやすい社会である。受講学生の人生観や人間観に訴える授業にしたい。</p>				
【到達目標】				
障がい者福祉の枠組みで社会と人間を見る視座を獲得する。				
【授業計画】				
第1回：オリエンテーション 第2回：出生前診断と先天異常 ノーマライゼーションについて 第3回：障がい児保育と家庭、地域社会 第4回：障がい児と学校(1) 学童保育 第5回：障がい児と学校(2) 特別支援教育 第6回：障がい児と学校(3) 特別支援学校と子どもの自立 前半 第7回：障がい児と学校(4) 特別支援学校と子どもの自立 後半 第8回：障がい児と学校(4) 障がい児の人権と就学保障 第9回：障がい者の就労支援(1) 自治体の取り組み 第10回：障がい者の就労支援(2) 企業の取り組み 第11回：障がい者の就労と自己実現 アートする障がい者 第12回：バリアフリー社会とノーマライゼーション 第13回：ユニバーサル・デザイン 第14回：共存共生社会の実現に向けて 第15回：ふりかえりとまとめ				
【履修条件】				
意欲的に学習に取り組む学生に限る。人間の尊厳と権利を学ぶ授業である。安易な単位取得のための履修は認めない。				
【学習上の留意点および準備等】				
授業中の、私語の禁止、携帯電話の禁止、正当な理由なき遅刻、早退の禁止、飲食の禁止を徹底する。受講学生数は50名程度に制限する。第1回オリエンテーション時に課すレポートにより受講学生を選考するため、第1回欠席者の履修登録は原則として認めない。				
【成績評価の方法】				
期末レポートを提出する。毎回の授業で感想レポートを提出する。学習態度とともに総合的に評価する。				
【テキスト】				
指定なし。必要に応じてハンドアウト(教材プリント)を使用する。				
【参考文献】				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	<small>おちあい</small> 落合 <small>じゅん</small> 純・ <small>やぶした</small> 藪下 <small>やすひろ</small> 保弘 E-mail : j-ochiai@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱでは、パソコンの基本操作、Webの活用、ワープロによる文書作成、表計算ソフトの活用方法、パソコン利用時のビジネスマナーなどを実習形式で学ぶ。 加えて、大学生として必要不可欠なコンピュータに関する操作スキルや知識をトータルで身につける。</p>				
【到達目標】				
<p>基礎Ⅰ：PCの基本操作、Webによる情報検索、Eメールの利用、Wordを使って整った文書作成ができるようになる。具体的には、日商PC検定3級レベルの知識・スキルを身につける。 基礎Ⅱ：Excelの基本的な操作、初歩的な関数、グラフ作成などができるようになる。具体的には、日商PC検定3級レベルの知識・スキルを身につける。</p>				
【授業計画】				
前期		後期		
第1回：ガイダンス		第1回：ガイダンス		
第2回：大学におけるインターネット利用		第2回：Excelによるデータ入力と表作成		
第3回：Wordによる文書作成①（レポート作成）		第3回：絶対参照と表の編集		
第4回：電子メールの使い方・ライティング技術		第4回：関数の利用①（SUM関数など）		
第5回：Wordによる文書作成②（ビジネス文書作成）		第5回：関数の利用②（IF関数など）		
第6回：Excelによる文書作成③（ビジネス文書管理）		第6回：ピボットテーブルによる集計		
第7回：Wordによる文書作成④（表の作成と編集）		第7回：集計機能による集計		
第8回：Wordによる文書作成⑤（表の装飾と計算）		第8回：関数による集計		
第9回：実技テスト①（表を使った文書作成）		第9回：Excelによるグラフ作成		
第10回：Wordによる文書作成⑥（図形作成）		第10回：複合グラフの作り方		
第11回：実技テスト②（図形を使った文書作成）		第11回：フィルタの活用		
第12回：知識問題の対策（共通問題）		第12回：総合演習①（売上分析）		
第13回：知識問題の対策（文書作成問題）		第13回：総合演習②（アンケート集計）		
第14回：知識問題の確認テスト		第14回：総合演習③（請求書作成）		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
受講者全員、「日商PC検定試験3級」に合格することを目標にして、日々の授業に取り組んでもらいたい。				
【成績評価の方法】				
期末試験は行わず、毎週配布する宿題や授業時間内に出題されるパソコンを使った実技問題、間に行われる各種確認テストの結果などにより総合的に評価する。				
【テキスト】				
開講時に指示する				
【参考文献】				
日商PC検定試験 文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 3級 知識科目 公式問題集				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
宗教学	後期	2単位	<small>てらさき けいどう</small> 寺崎 敬道 E-mail : nikeidai@ybb.ne.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>現代の日本では、宗教は否定的にとらえられることが少なくない。しかし、人間と宗教のかかわりは長い歴史を持つ。意識しているかどうかは別として、宗教心を持たない人間はおらず、したがって社会のあらゆる場面で宗教現象が観察される。</p> <p>その上、国際化によって多様な文化が交錯し、人間の相互理解のプロセスはますます複雑さを増している。自分は宗教を信じていないからといって、宗教のことを知らない、ではすまされなくなってきていることは明白である。自分の文化についての認識を深め、同時に他の文化を理解し受け入れるためには、宗教に対する視点をより広く深くしていかなければならない。</p> <p>このような視点から、この講義では、これまでの研究の蓄積を紹介し、宗教現象に近づくための基本的な考え方を示すとともに、現在の宗教学が格闘している問題にも触れていく。</p>				
【到達目標】				
宗教に関する基本的な知識を理解し、自分なりの宗教観を持つ。				
【授業計画】				
第1回：宗教学の歩み 第2回：社会の変化と宗教 第3回：宗教心理と宗教思想 第4回：社会構造・文化形式と宗教 第5回：宗教的表象の解読 第6回：宗教現象のフィールドワーク 第7回：オリエント宗教の展開 第8回：インド宗教の展開(1) 第9回：インド宗教の展開(2) 第10回：イスラームの時代 第11回：東アジアの中国宗教(1) 第12回：東アジアの中国宗教(2) 第13回：熱帯アフリカと中南米の宗教 第14回：日本の伝統宗教 第15回：新新宗教をめぐる諸問題				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
私語・飲食をせず、真剣に講義を受けること。				
【成績評価の方法】				
試験の点数によって判定する。				
【テキスト】				
特になし				
【参考文献】				
脇本平也『宗教学入門』（講談社）、棚次正和・山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書店）、その他				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
心理学	前期	2単位	<small>ささき ひろゆき</small> 佐々木 宏之 E-mail : sasaki@niigatachuoh-jc.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>基礎心理学の諸問題を概観し、意外なまでに知らない自分自身の心の振る舞いと、つい自分の常識で測ってしまうと見誤る他者の心の振る舞いについて理解する。各テーマにおいて、簡単な実験やデモンストレーションをふまえることで、心理学の基礎について理解を深める。</p>				
【到達目標】				
<p>心理学の基礎を学び、自分の心理を理解する。 心理学の基礎を学び、他者の心理を理解する。</p>				
【授業計画】				
前期		後期		
第1回：オリエンテーション		第1回：		
第2回：心理学の歴史的背景と研究法		第2回：		
第3回：感覚・知覚—心の入り口		第3回：		
第4回：顔の認知—人物同定と表情認識		第4回：		
第5回：注意と意識—意識の3つのレベル		第5回：		
第6回：記憶—短期記憶と長期記憶		第6回：		
第7回：学習—条件付け・学習の転移・学習法		第7回：		
第8回：欲求・動機づけ—生理的欲求・社会的欲求		第8回：		
第9回：感情—基本感情とその発達・感情の理論		第9回：		
第10回：対人社会心理学—自己知覚・他者認知		第10回：		
第11回：対人社会心理学—印象形成と印象操作		第11回：		
第12回：集団社会心理学—同調・服従・内面化		第12回：		
第13回：性格—性格の理解		第13回：		
第14回：性格—性格の測定		第14回：		
第15回：知能—知能の理論と測定		第15回：		
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
特になし				
【成績評価の方法】				
定期試験で評価する。				
【テキスト】				
配布資料を用いる。				
【参考文献】				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《アウトドアクラス》	夏季・冬季 のいずれか	夏季・冬季 ともに2単位	<small>すぎうら ぜんじろう</small> 杉浦 善次郎 (404研究室) E-mail: sugiura@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>レジャー活動として幅広い年代に親しまれているアウトドアスポーツを体験し、技能や知識を習得するとともに、健康増進や生き甲斐に繋がる可能性を理解し、自ら企画運営できる能力の習得を目指す。</p> <p>夏季はキャンプ及び水辺活動を、冬季はスキー・スノーボードを実施する。</p> <p>本科目は必修科目のため、夏季もしくは冬季のいずれか片方を履修し、他方を選択科目「アウトドアスポーツ」(2単位)として履修することにより夏季・冬季の両方の履修が可能となる。</p>				
【到達目標】				
アウトドアスポーツの体験を通じて、技術や知識を獲得する。また、地域資源を活用したスポーツ・ツーリズムについて理解できるようになる。				
【授業計画】				
夏季		冬季		
ガイダンス(1時間)		ガイダンス(1時間)		
野外活動の基礎理論講義(1時間)		事前講習(1時間)		
安全管理の講義(1時間)		現地実習(3泊4日) 志賀高原		
現地実習(2泊3日) みなかみ		スキーもしくはスノーボード実技及びビデオクリニック		
野外炊事				
オリエンテーリング・ウォークラリー				
工作				
ラフティング及びキャニオニングもしくはカヌー				
パラグライダー				
フィールドゲーム				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>実習費が必要である。</p> <p>活動に適した服装や準備する用具についての詳細はガイダンスで説明する。</p>				
【成績評価の方法】				
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%。				
【テキスト】				
なし				
【参考文献】				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《球技クラス》	前期	2単位	杉浦 善次郎、杉山 学 齋藤 良宏、滝沢 憲一	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>各種の球技を体験し、スポーツ活動に親しむ技能や態度を習得するとともに、現代社会においてスポーツをレジャー活動の一つとして生活に取り入れることの意義と必要性を理解し、そのための行動の仕方を身につけることを目指す。具体的には、以下の種目から、自己の興味・関心に応じて選択し履修する。</p> <p>屋外種目：サッカー、テニス、ソフトボール 屋内種目：バスケットボール、卓球、バドミントン</p>				
【到達目標】				
<p>ルール、用具、歴史などの知識を獲得し、運動技能を高め、ゲームを楽しむことができるようになる。さらに運動習慣の確立を通じて、健康の保持増進と体力の維持向上を図ることができる。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回：ガイダンス・クラス分け 第2回：基礎技術の練習(1) 第3回：基礎技術の練習(2) 第4回：集団技術・フォーメーション練習(1) 第5回：集団技術・フォーメーション練習(2) 第6回：ゲーム 第7回：ゲーム 第8回：ゲーム 第9回：ゲーム 第10回：ゲーム 第11回：ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム 第15回：総括</p>				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
各種目の実施に適した服装及びシューズを着用すること。				
【成績評価の方法】				
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%の比率で評価する。				
【テキスト】				
なし				
【参考文献】				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《太極拳クラス》	前期	2単位	つちが 土賀 秀敏、ひでとし 波多野 久子、 はたの ひさこ はせがわ 長谷川 かずみ	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>太極舞(拳)の動作は、ゆっくり、ゆったりと動かすので身体に無理をかけず、内臓にも大変よく理にかなった優れた健康法の1つです。</p> <p>舞うだけでスロトレ効果(筋肉増量)、片足立ち効果、腹式呼吸、腹圧効果、伸筋効果があります。</p> <p>太極舞(拳)を通して感謝の心を忘れず、人と争わず、仲間との和を大事にして自分の花を咲かせていきます。</p> <p>簡化24式の型を、自然立ち、呼吸法、ストレッチと共に順次楽しみながら学んでいきます。</p>				
【到達目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・太極舞(拳)24式の中から野馬分鬚(2)単鞭(9・11)蹬脚(13・15)はマスターする。 ・理にかなった力の使い方を学び、動きなどをストレッチ(例えば腹筋では反動をつけないで5回起き上がる)等を通じ体得する。 				
【授業計画】				
24式太極舞(拳)を1回に2つの型を進める(12回で24式終了)				
第1回	十字手・(1)起勢 (キセイ)	(2)野馬分鬚 (ノマフシクウ)	ストレッチ	
第2回	(3)白鶴亮翅 (ハッカクリョウシ)	(4)楼膝拗歩 (ロウシツヨウポ)	〃	
第3回	(5)手揮琵琶 (テウキビワ)	(6)倒捲肱 (トウケンコウ)	〃	
第4回	(7)左攬雀尾 (ヒダリランジャクビ)	(8)右攬雀尾 (ミギランジャクビ)	〃	
第5回	(9)単鞭(右) (ヒトエムチ)	(10)雲手 (ウラシメ)	〃	
第6回	(11)単鞭(左) (ヒトエムチ)	(12)高探馬 (コウタンバ)	〃	
第7回	(13)右蹬脚 (ミギトウキヤク)	(14)双峰貫耳 (ソウホウカンジ)	〃	
第8回	(15)轉身左蹬脚 (テニンシダリトウキヤク)	(16)左下勢独立 (ヒダリカセイドクリツ)	〃	
第9回	(17)右下勢独立 (ミギカセイドクリツ)	(18)左右穿梭 (サユウノセンサ)	〃	
第10回	(19)海底針 (カイテイシン)	(20)閃通臂<前と後> (センツウヘイ)	〃	
第11回	(21)搬攔捶 (バンランチ)	(22)如封似閉 (ジョウフウジヘイ)	〃	
第12回	(23)十字手 (ジュウジテ)	(24)収勢 (シュウセイ)	〃	
第13回	24式総復習			
第14回	24式を舞う			
第15回	前期末レポート			
【履修条件】				
動きやすい服装を着用(例えばトレーニングウェア等)				
【学習上の留意点および準備等】				
素足で行なうので靴は不要、靴下着用OK マット、タオル				
【成績評価の方法】				
授業態度、出席状況、レポートで総合的に評価				
【テキスト】				
なし				
【参考文献】				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《ダンスクラス》	前期	2単位	<small>なかじま たかこ</small> 中島 孝子 E-mail : takako720@hotmail.com	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>ダンスは他のスポーツとは一味違った側面を持っている。美的要素が強く非常に芸術的で感性的なスポーツともいえる。この授業ではこういったダンスを多方向からとらえ、音楽に合わせてリズムカルに楽しく踊るレクダンスやジャズ・チア・エアロビックダンスからHIPHOPのような個性的なリズムのダンス、さらには人と関わるコンタクト・インプロビゼーションなども取り入れたコミュニケーションダンスまで、様々なダンスを経験する中でスポーツにおける芸術的要素を見極める眼を養っていききたい。</p>				
【到達目標】				
<p>様々な音楽に合わせてリズムカルに生き生きと踊ることができる。</p>				
【授業計画】				
第1回：リズムカルなダンスを踊ろう①（レクダンス） 第2回：リズムカルなダンスを踊ろう②（チアダンス） 第3回：エアロビックダンスを踊ろう① 第4回：エアロビックダンスを踊ろう② 第5回：ミュージカル公演ダンス鑑賞 第6回：ミュージカルのワンシーンを踊ろう 第7回：HIPHOPダンスを踊ろう① 第8回：HIPHOPダンスを踊ろう② 第9回：コンタクトインプロビゼーションダンス① 第10回：コンタクトインプロビゼーションダンス② 第11回：ショートストーリー - ダンス①（テーマ） 第12回：ショートストーリーダンス②（モチーフ） 第13回：ショートストーリーダンス③（フレーズ） 第14回：チームごとに踊り込み・発表 第15回：まとめ				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>動きやすい服装で、毎時間筆記用具・タオル・スポーツドリンクなどを用意すること 初心者大歓迎。何より授業への積極的な参加を望みます。</p>				
【成績評価の方法】				
<p>授業の出欠席状況・授業への意欲・個人ノートへの記入内容など総合的に判断して評価します ダンスのテクニックよりも、どれだけ生き生きと踊れているかを評価します。</p>				
【テキスト】				
なし。必要に応じてプリント配布。				
【参考文献】				
同上				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
地理学	前期	2単位	<small>さわぐち しんいち</small> 澤口 晋一 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>地理学は、自然地理学と人文地理学とに二分される。前半は自然地理学の視点から地形、気候、土壌、植生といった地球上の自然環境の生い立ちや成り立ちについて広く説明する。後半はロシア、北米、アジアおよび北極圏の地理について、その特徴を人文地理的な内容も含めて概説する。</p>				
【到達目標】				
<p>地球の自然環境の成り立ちについての基本事項についての体系的理解と特定地域における地理的事象の把握。</p>				
【授業計画】				
<p>前期</p> <p>第1回：地図を描く（頭の中の地図）</p> <p>第2回：地理学という分野について</p> <p>第3回：地球の誕生と進化</p> <p>第4回：地圏の成り立ち①</p> <p>第5回：地圏の成り立ち②</p> <p>第6回：大気大循環と気候</p> <p>第7回：気候帯の成因と分布</p> <p>第8回：課題作業</p> <p>第9回：地域の地理 ロシアの地理①</p> <p>第10回：ロシアの地理②</p> <p>第11回：北米の地理①</p> <p>第12回：北米の地理②</p> <p>第13回：アジアの地理①</p> <p>第14回：アジアの地理②</p> <p>第15回：北極圏の地理</p>				
【履修条件】				
<p>毎年のごとくですが、授業中の私語、飲食、携帯使用、睡眠が非常に目立ちます。こうした行為ははじめに授業を受けたいと思っている人への妨害行為でもあるということをぜひ認識してください。大学生としての自覚をもち、しっかりと授業に参加したい人の受講を求めます。</p>				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>毎回パワーポイントを利用して、ビジュアル的にわかりやすく説明します。配布資料に目を通してくるなどの準備をすることが望ましい。</p>				
【成績評価の方法】				
<p>課題作業の提出と定期試験により評価。</p>				
【テキスト】				
<p>テキストは使用しない。毎回、資料を配布する。</p>				
【参考文献】				
<p>地図帳を準備することが望ましい（推薦：新コンパクト地図帳2014－2015 二宮書店）</p>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
新潟県の観光	前期	2単位	パロリ ブレンディ E-mail:b-barolli@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>観光立県の構想を打ち出した新潟県を対象に、21世紀のリーディング産業と呼ばれる観光産業を取り上げる。現在、日本が進めている観光立国政策が重点的に取り組むのは、①訪日外客市場（インバウンド）の拡大、および ②着地型観光（地域の観光資源を活かした住民・地元主導型観光）の推進である。ところが、従来の日本の観光市場は日本人による国内旅行および海外旅行（アウトバウンド）がメインであり、かつ、大手旅行会社が観光客を国内外に送客する発地型観光が中心となっていたため、現在の「二大重点施策」を押し進めるには課題が山積している。そこでこの講義では、現在の日本なかんずく新潟県の観光産業の特徴と課題を整理したうえで、インバウンドおよび着地型観光のケース分析を行い、観光立国・観光立県を実現するための実践的手法を考察する。</p>				
【到達目標】				
<p>内容をきちんと理解し、学外の第三者へ説明できるレベルに到達した学生を想定している。以下のことが特に大事である。</p> <p>1. 観光産業の特徴と課題、そして観光商品の特徴を理解すること。2. 新潟県の観光資源や観光地としてのポテンシャルについて詳しく理解すること。3. 地域住民主導の地域づくりとしての着地型観光の考え方、そしてそれに基づいた政策の課題を理解すること。4. インバウンド観光の商品づくりの特徴と課題を理解し、自ら提案をすることが出来るようになること。5. 観光が国や地域社会に及ぼす影響および持続可能な観光を実現するための条件を把握すること。</p>				
【授業計画】				
前期				
第1回：ガイダンス				
第2回：国の観光政策				
第3回：新潟県観光の沿革・特色				
第4回：新潟県地方自治体の観光政策				
第5回：新潟県観光動態の推移				
第6回：新潟県の主な観光資源				
第7回：新潟県の名所（県内旅行）*				
第8回：新潟県の名所（県内旅行）*				
第9回：新潟県の地域特性・資源の把握				
第10回：新潟県の「食」観光資源				
第11回：新潟県の「歴史」観光資源				
第12回：新潟県の外客誘致				
第13回：新潟県インバウンド観光の現状と問題				
第14回：新潟県の観光振興を考えよう				
第15回：まとめ				
*土曜日に行う。日帰りの県内旅行。『基礎ゼミナールⅠ』の2こま分と『新潟県の観光』の2こま分とカウントされる。旅行を行う週とその翌週は『基礎ゼミナールⅠ』および『新潟県の観光』のクラス授業はなし。				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>「○○新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されるので、目を通しておくとよいでしょう。」</p> <p>「県内の○○センターには関連する最新情報が掲示されています。」</p> <p>などの、学習上の助言を行う。積極的に対応してもらいたいと思います。</p>				
【成績評価の方法】				
課題レポート30%（各レポート15%×2回、期末試験50%、受講態度 20%				
【テキスト】				
1. 大社 充、体験交流型ツーリズムの手法地域資源を活かす着地型観光、学芸出版社、2008年。				
【参考文献】				
1. 古池 嘉和、地域の産業・文化と観光まちづくり創造性を育むツーリズム、学芸出版社、2011年。				
2. 新潟県観光入込客統計、新潟県観光立県推進行動計画、新潟県観光地満足度調査結果などは適宜講義中に紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
日本国憲法	前期	2単位		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>本講義では、映画又は演劇を鑑賞し分析を加えることで、社会人として知っておくべき憲法の基礎知識に関して解説する。憲法とは、社会の基本的な設計図といえ、自分たちがどのような社会で生きていくか、どのような社会で生きていきたいかを考える上で非常に重要なものである。憲法は抽象的な議論が多く敬遠されがちであるが、映画や演劇という身近な題材を用いて憲法に対する理解が深まるよう講義するつもりである。その際には、受講者に対して質問を投げかけることもあることから積極的に講義に参加する姿勢が求められる。注意点として、時間の関係上全編鑑賞することが困難であることから、講義後各自で残りの部分を鑑賞し講義で扱った憲法上のテーマを復習することが求められる。また、取り上げる作品は予定であって状況により変更することもある。</p>				
【到達目標】				
<p>憲法に関する知識の修得と、問題となる事象を法的観点から分析し、自分の考えを述べることが出来るようになる。</p>				
【授業計画】				
前期				
第1回：ガイダンス・「1984年」から考える憲法の意義と国民主権①				
第2回：「1984年」から考える憲法の意義と国民主権②				
第3回：「太陽」から考える象徴天皇制①				
第4回：「太陽」から考える象徴天皇制②				
第5回：「ゴジラ（1954年）」から考える平和主義①				
第6回：「ゴジラ（1954年）」から考える平和主義②				
第7回：「告白」から考える未成年の人権①				
第8回：「告白」から考える未成年の人権②				
第9回：「赤鬼」から考える外国人の人権①				
第10回：「赤鬼」から考える外国人の人権②				
第11回：「それでもボクはやってない」から考える人身の自由と司法制度①				
第12回：「それでもボクはやってない」から考える人身の自由と司法制度②				
第13回：「ダークナイト」から考える自由と正義①				
第14回：「ダークナイト」から考える自由と正義②				
第15回：これまでのまとめ				
【履修条件】				
なし				
【学習上の留意点および準備等】				
講義に対し積極的に参加する姿勢のみ				
【成績評価の方法】				
講義に関する5000字以上のレポート 100%				
【テキスト】				
なし				
【参考文献】				
志田陽子編「映画で学ぶ憲法」（法律文化社、2014年）				

※記載上の注意事項

- ・第1回及び第15回の内容については加筆可能ですが「ガイダンス」「まとめ」の文言は必ず含めて下さい。
- ・いわゆる「出席点」など出席状況を成績評価の方法に含めないで下さい。
- ・「記載上の注意事項」は削除し、A4版1枚の範囲に納まるよう各欄を増減して構いません。

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ビジネスマナーとホスピタリティ	前期	2単位	きくの あさこ 菊野 麻子	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>ビジネスマナーとは、「職業人としての礼儀作法」のことです。年代を問わず多くの人達と関わりながら仕事をしていくためには、言葉遣いや立ち居振る舞いで相手を思いやる気持ちを伝えることがとても大切です。知らないと恥をかく、知っていれば円滑に相手とコミュニケーションがとれる、社会で活躍するうえで大切なビジネスマナーの基本を学びましょう。</p> <p>本講義では、ビジネスマナーの「型」を身に付けてもらいます。学生の皆さんには、講義を聞くだけでなく、主体的に多くのことを学び、気づき、自分で考えて行動できる「対応力」も養ってもらいたいと思います。</p> <p>総括として、それぞれが考える「ホスピタリティ・マインド（もてなしの心）とは」をテーマに、グループごとに話し合い、その内容を発表してもらいます。どのような意見が出されるのか、期待しています。</p>				
【到達目標】				
<p>職業人の基本となるビジネスマナーを身につけるとともに、日本の“もてなしの心”を育むことで国内外で活躍できる人材を育成する</p>				
【授業計画】				
前期				
第1回：オリエンテーション				
第2回：ビジネスコミュニケーションの基本				
第3回：ビジネスコミュニケーション①<正しい日本語/敬語>				
第4回：来客対応（第一印象/立ち居振る舞い）				
第5回：ビジネスコミュニケーション②<伝える技術>				
第6回：電話対応				
第7回：ビジネスコミュニケーション③<聞く技術>				
第8回：職場におけるマナー（命令指示の受け方/報告のしかた）				
第9回：社外でのマナー（訪問のしかた/名刺交換のしかた）				
第10回：ビジネスコミュニケーション④<ビジネス文書の基本>				
第11回：ユニバーサルサービス①<基本的な考え方>				
第12回：ユニバーサルサービス②<ケーススタディ>				
第13回：ビジネスコミュニケーション⑤<クレーム対応の基本>				
第14回：ホスピタリティとは<プレゼンテーション>				
第15回：総括				
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>講義を聞くという受け身ではなく、学び、気づき、行動につなげる</p> <p>※2コマ続けての講義</p>				
【成績評価の方法】				
授業態度、課題提出などを総合的にみて評価する				
【テキスト】				
「ビジネスのマナー・文書・実務の基礎知識」（株式会社ぎょうせい）				
http://shop.gyosei.jp/index.php?main_page=product_info&products_id=7405				
「接客・接遇のためのユニバーサルサービス基本テキスト」（日本能率協会マネジメントセンター）				
http://universalservice.jp/books/526/				
【参考文献】				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
法学	前期	2単位	<small>おちあい ふくじ</small> 落合 福司（409研究室） E-mail : ochiai@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>「社会のあるところに法がある」といわれるように、人間が形成する社会には一定のルールがあり、それは紛争を予防し、解決することによって安定した社会秩序を実現する。このルールというのが法である。そして国家の下では、法は法律という形式を備えて社会全体をコントロールする機能を発揮している。</p> <p>そこで、法律の基本的枠組みを理解するとともに、現代社会に生起する法律問題の解決を考えることにより、法的思考能力および法的紛争解決能力を養うことにする。</p>				
【到達目標】				
社会で生起する事件やトラブルの法的解決を考えることができる。				
【授業計画】				
第1回：社会と法Ⅰ 法の目的と法源 第2回：社会と法Ⅱ 法の解釈と適用 第3回：国家と法律Ⅰ 憲法 第4回：国家と法律Ⅱ 刑法 第5回：市民と法律Ⅰ 契約法 第6回：市民と法律Ⅱ 損害賠償法 第7回：家族と法律Ⅰ 婚姻法・親子法 第8回：家族と法律Ⅱ 相続法・遺言法 第9回：企業と法律Ⅰ 商法・会社法 第10回：企業と法律Ⅱ 製造物責任法 第11回：労働と法律Ⅰ 労働法 第12回：労働と法律Ⅱ 社会保障法 第13回：世界と法律Ⅰ 国際公法 第14回：世界と法律Ⅱ 国際私法 第15回：法とは何かを考える				
【履修条件】				
勉学意欲があること。				
【学習上の留意点および準備等】				
①テキストを携帯して出席すること ②予習復習をすること ③私語はしないこと				
【成績評価の方法】				
定期試験及びレポートによる総合評価。				
【テキスト】				
落合福司ほか著『やさしい法学』成文堂				
【参考文献】				
デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)など。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
簿記会計Ⅰ・Ⅱ	I：前期 Ⅱ：後期	I：2単位 Ⅱ：2単位	藪下保弘 E-mail：yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>ビジネス・パーソンに求められる三種の神器が「読み・書き・そろばん」から「英語・IT・会計」に変容したといわれて久しい。会計は、ビジネスのコモン・ランゲージ(共通言語)ともいわれ、ビジネス・マナーと同様に最低限身につけておくべき社会人としての素養である。ここにいう会計リテラシーを身につけるための基礎かつ必須とされる技術が「簿記」である。</p> <p>本講義では、簿記を学ぶ端緒を開くため、5つの構成要素（資産・負債・純資産・収益・費用）の性質を理解し、これらの最小単位である「勘定科目」ごとに異なる処理を学ぶ。</p> <p>最終的には、会計報告および意思決定に資する情報の基礎となる報告書、すなわち企業の財政状態を明らかにする「貸借対照表」と、同じく経営成績を明らかにする「損益計算書」の作成に至る一連の技法を習得する。</p> <p>なお、本講義では「日商簿記3級」（商業簿記）の取扱範囲を網羅する。</p>				
【到達目標】				
日商簿記3級合格レベルを必達とする。				
【授業計画】				
簿記会計Ⅰ		簿記会計Ⅱ		
第1回：ガイダンス 会計と簿記の基礎		第1回：決算手続(1) 決算のあらまし、評価替え		
第2回：日常の手続き(1) 勘定・仕訳		第2回：決算手続(2) 現金過不足、消耗品		
第3回：日常の手続き(2) 簿記一巡		第3回：決算手続(3) 売上原価の算定		
第4回：商品売買(1) 三分法、掛取引		第4回：決算手続(4) 減価償却、売却		
第5回：商品売買(2) 返品、値引、諸掛		第5回：決算手続(5) 貸し倒れ		
第6回：現金預金取引		第6回：決算手続(6) 見越し、繰延べ		
第7回：当座預金取引		第7回：決算手続(7) 精算表		
第8回：小口現金		第8回：決算手続(8) 帳簿（勘定）の締め切り		
第9回：手形取引(1) 約束手形		第9回：決算手続(9) 財務諸表の作成		
第10回：手形取引(2) 裏書、割引		第10回：伝票式会計		
第11回：その他の期中取引(1) 債権債務		第11回：総合問題演習(1) 仕訳		
第12回：その他の期中取引(2) 固定資産、有価証券		第12回：総合問題演習(2) 合計試算表、残高試算表		
第13回：その他の期中取引(3) 租税公課、訂正仕訳		第13回：総合問題演習(3) 記帳方法の変更		
第14回：試算表の作成		第14回：総合問題演習(4) 精算表、財務諸表		
第15回：貸借対照表と損益計算書		第15回：まとめ 会計の役割		
【履修条件】				
特になし				
【学習上の留意点および準備等】				
毎回の講義では、指定テキストと電卓は必携である。 (授業適合した電卓は別途開講時に示す)				
【成績評価の方法】				
期末テストのみで評価する。				
【テキスト】				
『合格テキスト』TAC出版				
【参考文献】				
『スッキリわかる日商簿記3級』滝澤みなみ、TAC出版				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ライティング I	後期	1単位	サウスウィック プライアン E-mail:b-southwick@duck.niigataum.ac.jp 小林 美奈子	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>ビギナーレベルの学生が、日常の出来事や時事問題に関して、自分の意見を英語で書ける技術を習得する授業である。ことに、新聞やインターネットの記事から英語および日本語で得た情報を理解し、分析したうえでライティングを練習する。</p>				
【到達目標】				
<p>基本的なライティング技術を高めること。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回：ガイダンス 第2回：Types of Writing 第3回：Descriptive Writing I 第4回：Descriptive Writing II 第5回：Short Test; Special Topics 第6回：Writing about Everyday Events 第7回：Diaries and Journals 第8回：Short Test; Special Topics 第9回：Expressing Opinions 第10回：Expressing Opinions about Current Events I 第11回：Expressing Opinions about Current Events II 第12回：Short Test; Special Topics 第13回：Critical Writing I 第14回：Critical Writing II 第15回：まとめ</p>				
【履修条件】				
<p>特になし</p>				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>授業に遅れず出席し宿題をきちんと完成して提出すること、自習学習をすること、筆記用具等を用意すること、授業中に与えられた課題に積極的に対応すること</p>				
【成績評価の方法】				
<p>積極性、課題提出、テストの結果を総合的に評価する。</p>				
【テキスト】				
<p>随時指示する。</p>				
【参考文献】				
<p>和英・英和辞典</p>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
リーディング I	前期	1 単位	サウスウィック プライアン E-mail:b-southwick@duck.niigataum.ac.jp 小林 美奈子	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
【授業の概要】				
<p>ビギナーレベルの学生が、グローバル化が進展する今日社会から求められる基本的なリーディング技術を習得する授業である。経済・ビジネスや世界の動きなどについての英字新聞や英語雑誌の記事、そしてインターネットの資料を読むために必要な語彙を増やし、速読や精読を組み合わせ多様な文献に対応できるように進める。</p>				
【到達目標】				
<p>基本的なリーディング技術を高めること。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回：ガイダンス 第2回：Textbook Reading 1 第3回：Textbook Reading 2 第4回：Textbook Reading 3 第5回：Short Test; Reading an English Newspaper 第6回：Textbook Reading 4 第7回：Textbook Reading 5; Speed Reading 第8回：Short Test; Internet Reading 第9回：Textbook Reading 6; Close Reading 第10回：Textbook Reading 7 第11回：Textbook Reading 8 第12回：Short Test; Reading a Magazine 第13回：Textbook Reading 9; Reading for Speed and Closeness 第14回：Readings from the Internet, Newspapers, and Magazines 第15回：まとめ</p>				
【履修条件】				
<p>指定されたテキストを購入してください</p>				
【学習上の留意点および準備等】				
<p>授業に遅れず出席し宿題をきちんと完成して提出すること、自習学習をすること、筆記用具とテキスト等を用意すること、授業中に与えられ課題に積極的に対応すること</p>				
【成績評価の方法】				
<p>積極性、課題提出、テストの結果を総合的に評価する</p>				
【テキスト】				
<p>Takaie, Hideshi & Fukuda, Taiji. (2014) Word Power Reading, Stage 1. Biseisha, Japan Takaie, Hideshi & Fukuda, Taiji. (2014) Word Power (Vocabulary and Phrasebook). Biseisha, Japan</p>				
【参考文献】				
<p>和英・英和辞典</p>				